2022年3月期 第2四半期決算短信（日本基準）（非連結）

2021年11月11日

上場会社名　株式会社アルファポリス　　上場取引所　東
コード番号　9467　URL https://www.alphapolis.co.jp/company/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）梶本　雄介
問合せ先責任者　（役職名）取締役兼管理本部本部長　（氏名）大久保　明道　TEL 03-6277-0123
四半期報告書提出予定日　2021年11月11日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2022年3月期第2四半期の業績（2021年4月1日～2021年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	4,499	18.9	953	△8.6	957	△8.6	593	△10.0
2021年3月期第2四半期	3,782	54.6	1,043	66.8	1,047	67.4	659	67.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	61.28	―
2021年3月期第2四半期	68.10	―

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	10,090	7,983	79.1
2021年3月期	9,478	7,483	78.9

（参考）自己資本　2022年3月期第2四半期　7,983百万円　2021年3月期　7,483百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2022年3月期	―	0.00			
2022年3月期（予想）			―	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 2022年 3月期の業績予想（2021年 4月 1日～2022年 3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,300	20.2	2,400	10.9	2,400	10.5	1,488	11.5	153.60

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 有

② ①以外の会計方針の変更 ： 無

③ 会計上の見積りの変更 ： 無

④ 修正再表示 ： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期2Q	9,687,400 株	2021年3月期	9,687,400 株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	242 株	2021年3月期	206 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期2Q	9,687,177 株	2021年3月期2Q	9,687,248 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1．当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 5
第２四半期累計期間 …… 5
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 …… 6
（４）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 7
（会計方針の変更） …… 7
（追加情報） …… 7
（セグメント情報等） …… 7
（重要な後発事象） …… 7

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第２四半期累計期間（2021年４月１日から2021年９月30日まで）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により景気は厳しい状況にあり、感染拡大の防止策の実施やワクチン接種の促進に加え各種政策の効果や海外経済の改善もあって持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増しており、依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社が属する出版業界におきましては、紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、プラス成長となりました。全国出版協会・出版科学研究所によると、2021年上半期（１月から６月まで）の紙と電子出版を合算した推定販売金額は前年同期比8.6％増の8,632億円となり、その内訳は、紙の出版物については同4.2％増となる6,445億円、電子出版については同24.1％増の2,187億円と、電子出版市場が順調な成長を続けております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第２四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

① ライトノベル

当第２四半期累計期間の刊行点数は98点（前年同期比２点減）となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、『異世界ゆるり紀行』等の人気シリーズの続刊が引き続き好調に推移いたしました。また、2021年７月からTVアニメ放送を開始した『月が導く異世界道中』の原作最新巻となる第17巻を９月に刊行し、好調な売れ行きを示したことに加え、同シリーズ既刊の電子書籍販売が大幅に伸長したことが売上を大きく牽引いたしました。

結果、当第２四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

② 漫画

当第２四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る69点（前年同期比15点増）となりました。ライトノベルのヒット作をコミカライズした『自称悪役令嬢な婚約者の観察記録。』、『最後にひとつだけお願いしてもよろしいでしょうか』、『素材採取家の異世界旅行記』等、複数の人気シリーズの続刊が堅調に推移いたしました。また、当ジャンルと親和性が非常に高い電子書籍販売につきましても、これらの人気シリーズが好調に推移したことに加え、TVアニメ化した『月が導く異世界道中』が新規読者の獲得により既刊の販売数を大きく伸ばしたことから、売上は大幅に増加いたしました。

結果、当第２四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る金額で着地いたしました。

③ 文庫

当第２四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る71点（前年同期比２点増）となりました。シリーズ累計126万部を突破した人気タイトル『居酒屋ぼったくり』の著者による初の時代小説『きよのお江戸料理日記』の第２巻を刊行し、同タイトルが売上を牽引いたしました。さらに、キャラ文芸ジャンルからは『迦国あやかし後宮譚』の続巻を刊行する等、引き続き取り扱いジャンルの拡大に注力してまいりました。

しかしながら、刊行計画の関係から、刊行書籍１点あたりの発行部数は前年同期に届かず、当第２四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

④ その他

当第２四半期累計期間の刊行点数は５点（前年同期比７点減）となりました。当社のWebコンテンツ大賞である第12回絵本・児童書大賞において優秀賞を受賞した絵本『だんごむしコーロコロ』を刊行し、絵本ジャンルの強化等を推進してまいりました。

しかし、刊行計画の都合上、刊行点数が前年同期から減少した影響等により、当第２四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第２四半期累計期間の売上高は4,499,318千円（前年同期比18.9％増）となり、過去最高を更新いたしました。

一方利益面におきましては、当第２四半期累計期間においてテレビCM放映をはじめとした当社サービスの認知度向上に向けた大型成長投資を実施したこと等により販売費及び一般管理費が大幅に増加し、営業利益は953,685千円（同8.6％減）、経常利益は957,451千円（同8.6％減）、四半期純利益は593,620千円（同10.0％減）となりました。

なお、会計方針の変更として、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年３月31日）等を第１四半期会計期間の期首から適用しております。このため、前年同期比較は基準の異なる算定方法に基づいた数値を用いております。詳細については、「２．四半期財務諸表及び主な注記（４）四半期財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照下さい。

（注）シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含み、部数は電子書籍販売数を含む。

（２）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第２四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末と比較して553,932千円増加し、9,657,136千円となりました。これは主に、売掛金が増加（前事業年度末比290,297千円増）したこと並びに現金及び預金が増加（同218,923千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して57,511千円増加し、433,206千円となりました。これは主に、投資その他の資産が増加（同37,444千円増）したこと及び無形固定資産が増加（同21,809千円増）したことによるものであります。

（負債）

当第２四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ122,201千円増加し、2,075,330千円となりました。これは主に、返品調整引当金が減少（前事業年度末比307,252千円減）したこと、未払法人税等が減少（同280,999千円減）したこと及びその他が減少（同115,206千円減）した一方で、返金負債が増加（同459,007千円増）したこと及び未払金が増加（同363,375千円増）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ10,693千円減少し、31,557千円となりました。これは主に、長期借入金の減少（同10,044千円減）によるものであります。

（純資産）

当第２四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ499,936千円増加し、7,983,454千円となりました。これは主に、四半期純利益の計上等に伴う利益剰余金の増加（前事業年度末比500,062千円増）によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第２四半期会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ218,923千円増加し、6,307,392千円となりました。当第２四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは271,580千円の収入（前年同期は587,770千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益の計上及び未払金の増加によるものであります。また、主な減少要因は、売上債権の増加及び法人税等の支払によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは41,847千円の支出（前年同期は959千円の支出）となりました。主な減少要因は、無形固定資産の取得及び出資金の払込によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは10,809千円の支出（前年同期は10,770千円の支出）となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年３月期の業績予想につきましては、2021年５月13日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2021年３月31日)	当第２四半期会計期間 (2021年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,088,469	6,307,392
売掛金	2,659,929	2,950,227
製品	193,359	191,188
仕掛品	132,933	151,258
その他	28,511	57,069
流動資産合計	9,103,204	9,657,136
固定資産		
有形固定資産	33,531	31,789
無形固定資産	32,178	53,988
投資その他の資産	309,983	347,428
固定資産合計	375,694	433,206
資産合計	9,478,898	10,090,342
負債の部		
流動負債		
買掛金	51,600	46,169
１年内返済予定の長期借入金	20,088	20,088
未払金	577,343	940,719
未払法人税等	666,783	385,784
賞与引当金	44,139	48,363
返品調整引当金	307,252	－
返金負債	－	459,007
投稿インセンティブ引当金	27,550	32,034
その他	258,370	143,163
流動負債合計	1,953,129	2,075,330
固定負債		
長期借入金	37,252	27,208
その他	4,998	4,349
固定負債合計	42,250	31,557
負債合計	1,995,380	2,106,888
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	5,766,272	6,266,335
自己株式	△403	△529
株主資本合計	7,483,518	7,983,454
純資産合計	7,483,518	7,983,454
負債純資産合計	9,478,898	10,090,342

（２）四半期損益計算書

（第２四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自　2020年４月１日 至　2020年９月30日）	当第２四半期累計期間 （自　2021年４月１日 至　2021年９月30日）
売上高	3,782,996	4,499,318
売上原価	829,291	1,009,694
売上総利益	2,953,704	3,489,624
返品調整引当金戻入額	339,621	－
返品調整引当金繰入額	319,893	－
差引売上総利益	2,973,432	3,489,624
販売費及び一般管理費	1,929,580	2,535,938
営業利益	1,043,852	953,685
営業外収益		
受取利息	19	25
前払式支払手段失効益	3,453	4,275
営業外収益合計	3,473	4,301
営業外費用		
支払利息	105	124
その他	－	410
営業外費用合計	105	534
経常利益	1,047,220	957,451
税引前四半期純利益	1,047,220	957,451
法人税等	387,471	363,831
四半期純利益	659,748	593,620

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自　2020年４月１日 至　2020年９月30日）	当第２四半期累計期間 （自　2021年４月１日 至　2021年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,047,220	957,451
減価償却費	13,727	11,275
賞与引当金の増減額（△は減少）	19,421	4,223
返品調整引当金の増減額（△は減少）	△19,728	－
返金負債の増減額（△は減少）	－	△5,295
投稿インセンティブ引当金の増減額（△は減少）	8,370	4,483
受取利息及び受取配当金	△19	△25
支払利息	105	124
売上債権の増減額（△は増加）	△295,595	△290,297
棚卸資産の増減額（△は増加）	△5,448	△16,153
仕入債務の増減額（△は減少）	△5,222	△5,430
未払金の増減額（△は減少）	57,678	365,320
その他	31,748	△119,152
小計	852,256	906,524
利息及び配当金の受取額	19	25
利息の支払額	△105	△124
本社移転費用の支払額	△10,499	－
法人税等の支払額	△253,900	△634,845
営業活動によるキャッシュ・フロー	587,770	271,580
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△885	△1,328
無形固定資産の取得による支出	△3,692	△27,953
出資金の払込による支出	－	△12,565
出資金の回収による収入	3,618	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	△959	△41,847
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△10,044	△10,044
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△726	△639
自己株式の取得による支出	－	△126
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,770	△10,809
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	576,040	218,923
現金及び現金同等物の期首残高	4,546,132	6,088,469
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,122,172	6,307,392

（４）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第２四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年３月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第１四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来は売上総利益相当額に基づいて流動負債に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる製品についての売上高及び売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返金負債を流動負債の「返金負債」として計上し、返品資産を流動資産の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第１四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第１四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第２四半期累計期間の売上高が5,295千円増加し、売上原価が12,211千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ6,915千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は93,557千円減少しております。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年７月４日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第１四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年７月４日）第44-２項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

（追加情報）

（表示方法の変更）

（四半期貸借対照表）

前事業年度末まで貸借対照表において、流動負債に表示していた「ポイント引当金」は、内容をより明瞭にするため、第１四半期会計期間より流動負債の「投稿インセンティブ引当金」として科目名を変更して表示しております。

（四半期キャッシュ・フロー計算書）

前第２四半期累計期間の四半期キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローに表示していた「ポイント引当金の増減額」は、内容をより明瞭にするため、当第２四半期累計期間より営業活動によるキャッシュ・フローの「投稿インセンティブ引当金の増減額」として科目名を変更して表示しております。

（セグメント情報等）

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。